

美山、東郷地区を中心とする児童の自然体験事業へ  
向け議論を深めた事業検討委員会 東郷公民館



## 美山、東郷地区が事業連携

# 農家で宿泊 自然体験を

## 県内外小学校に働き掛け

農山村を舞台に、まちなかの児童の自然体験活動を進めようと、福井市美山、東郷の2地区と同市のNPO法人「自然体験共学センター」が連携し、事業展開を計画している。11日に協議会を発足、県内外の小学校に働き掛け、農家での宿泊やキャンプなど、地域の自然や人的資源を生かし推進していく。

農林水産省の「グリーン・ツーリズム促進等緊急対策事業」を受けて実施。主に児童が農家民宿などに泊まり、地域との交流を楽しむ宿泊型の体験活動を進めていく。両地区を中心に、山や川などの豊かな自然環境や地域の「達人」を生かす。

いずれは市内全域で連携していききたい考え。両地区と同NPOなどの関係者が、昨年11月から準備会、事業検討委員会を開いて計画を検討。全国の自然体験の専門家を招いてワークショップや講演会を開き、地域で知識を深めるなど準備してきた。

11日に発足する協議会には、美山地区の伊自良の里振興協会や、東郷地区の東郷ふるさとおこし協議会などが参加。自然体験の指導者として、農業やわら細工作りなど両地区のさまざまな分野の人材をピックアップし、

体験プログラムを作る。また説明、研修会を開き、児童を受け入れる農家民宿を増やしていく。

今年中にメンバーが大阪の小学校などで広報活動を行うほか、パンフレットを作製し、県内や関西の約1千校に送付する予定。

美山地区の旧上味見小に拠点を構え、児童らの自然体験プログラムを

展開する同NPOは、夏のキャンプ事業で東郷地区と連携、県内児童の民泊体験を実施している。

事業検討委員会で事務局を務める同NPOの辻一憲理事長は「両地区の参加者はみな熱い思いを持っている。まずは受け入れ実績をつくり、地域活性化にもつなげていきたい」と話している。